

## サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第8章 パート2

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

黙示録 8 章。

学びの中では大患難の真っ只中。

先日は天で起こる静寂に関して、静寂には祈りの権威があるという説得力のある学びをしました。

次にラッパが吹き鳴らされるのですが、ヨハネの時代の人たちは 7 つのラッパと言えば、最も重要な宣言を思い浮かべました。

「この世に王国がやって来た！我らの主キリストの王国！主が永遠に支配される！」

同じ宣言がヨシュアの時代にもなされました。

彼らは 7 本の角笛を吹きながら、町の周りを 7 周回りました。

その後エリコの城壁が崩壊した様子は、大患難時代にイエシュア、イエスが敵を追い出すということを見事に描写しています。

ヨシュア記で、反キリストの立場にある偽のリーダー、アドニ・ツェデクが片付いた後、何が起こったでしょう。

ヨシュア記 11 章。

ヨシュアは、その地をことごとく取った。すべて主がモーセに告げたとおりであった。

ヨシュアはこの地を、イスラエルの部族の割り当てにしたがって、相続地としてイスラエルに分け与えた。(ヨシュア記 11:23)

エゼキエルは、7 年の大患難が終わって千年王国が始まると、イスラエルの各部族に再び土地が与えられると預言しました。

神である主はこう仰せられる。あなたがたがイスラエルの十二の部族にこの国を相続地として与える  
(エゼキエル書 47:13)

千年王国の土地についてエゼキエル書に書いてある通りのことが、ヨシュア時代にも同じように起こったのです。

この先、黙示録を学ぶ中で見ていきますが、千年王国が始まると、また驚くことが起こります。

千年王国の期間は千年。

千年王国が終わると、千年の間に生まれ育った人々に、主を信頼し主と歩むのか、または主に背くのかを自ら選ぶ機会を与えるために、サタンが最後にもう一度解き放たれます。

ヨシュア記の終わりはどうでしたか。

ヨシュアは言いました。

「あなたがたが仕えようと思うものを、どれでも、きょう選ぶがよい。」(ヨシュア記 24:15)

7つ目の封印が解かれ、これから7つのラッパが吹き鳴らされます。

第2の裁き。

まず封印の裁きがあって、第2がラッパの裁き、そして最後に鉢がぶちまけられます。

そこで前回の続き、黙示録 8章 6節。

すると、七つのラッパを持っていた七人の御使いはラッパを吹く用意をした。(黙示録 8:6)

第一の御使いがラッパを吹き鳴らした。

すると、血の混じった雹と火とが現れ、地上に投げられた。そして地上の三分の一が焼け、木の三分の一も焼け、青草が全部焼けてしまった。(黙示録 8:7)

最初の御使いが7つのラッパのうちの最初の一つを吹き鳴らすと、地球の1/3が火で焼かれ、雹が地上に投げられ、流血が起こると書いてあります。

可能性として、このラッパの裁きは核によるもの、世界中の国々が所有する核兵器の使用による大虐殺かもしれません。

これまでの歴史を見ると、人類史始まって以来このかた、開発された兵器はその開発国によって必ず使用されてきました。

もし核兵器を所有するすべての国、アメリカ、ロシア、フランス、イギリス、イスラエル、インド、恐らくパキスタン、中国、その他、軍が核兵器を所有している国々がそれを使わなかったとしたら、歴史がひっくり返るでしょう。

ここに書かれている裁きは、神が核戦争を許可されるという可能性はあります。

そうなるとは言っていないよ。

それで驚くことに、核弾頭の爆発によって、時速400 km以上の火や炎の嵐が発生する事が知られています。

核弾頭一つで炎の壁、炎の嵐がとんでもない速さで吹き抜け、そこにある全てを焼き尽くし、あらゆるも

のを燃やし尽くしてしまうのです。

だからここで表現されていることが、それに当たる可能性はあります。

**木の三分の一も焼け、青草が全部焼けてしまった。(黙示録 8:7)**

炎が広大な地域一帯を燃やし、なめ尽くす様子が想像できます。

また、雹についてですが、今でも地上での核実験は行われていて、ビキニ島で核弾頭に点火し爆発させた時、驚くべき事が発見されました。

核実験が行われた時、島周辺の海水が上空高く吹き上げられ、その水が凍り、巨大な雹となって降ってきたのです。

その雹によって、多くの監視装置が破壊されてしまいました。

ともかく、これも可能性としてあり得るということです。

火、血、雹があり、膨大な地域が火で焼かれる。

全てのものが焼かれてしまうのです。

**第二の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、火の燃えている大きな山のようなものが (黙示録 8:8)**

ここで使われている表現は、「山の“ような”」

だからこれは本当の山ではなく、“山のような”何か。

ヨハネは何か巨大なものを見ていますが、それが何かは分かりません。

が、これもまた、核爆発の際の「キノコ雲」である可能性があります。

広島や長崎の写真を見たことがあるでしょう。

山のような形の大きな雲。それかもしれません。

**すると、火の燃えている大きな山のようなものが、海に投げ込まれた。**

**そして海の三分の一が血となった。(黙示録 8:8)**

**すると、海の中にいた、いのちのあるものの三分の一が死に、舟の三分の一も打ちこわされた。**

**(黙示録 8:9)**

大変です。

ご存知の通り、地球の  $\frac{3}{4}$  は水で覆われていて、その  $\frac{1}{3}$  は大西洋。ピッタリです。

可能性として核兵器が使われ、その一部が海に落下し、書かれている通りに海の中の全てのものが死に、全ての舟が沈む。

**舟の三分の一も打ちこわされた。(黙示録 8:9)**

現在、海上にある 4 万隻の貿易商船のうち、 $\frac{1}{3}$  は大西洋上にいます。

そうかもしれないし、そうでないかもしれません。

その時が来れば分かるでしょう。

もう一度言いますが、核戦争かもしれないし、神は全く別の何かを用いられるのかもしれません。

ラッパの裁きを読んでいく中で、「これはただの象徴だよ。深読みしてはいけない。ただのお話さ。」と言う人たちがいるでしょう。

聖書を学ぶ皆さんには自身で調べて欲しいのですが、このラッパの裁きが、エジプトとパロの家族にもたらされた裁きや災いと、いかに似通っているかを見て下さい。

驚くほど共通点があることに気付くでしょう。

エジプトに下った災いについて、パロに聞いてみて下さい。

彼は言うでしょう。「その通りだ。」

パロの時代に下された災いは、文字通り絶望的で、胸が引き裂かれるような、パロのためにエジプトの人たちが激しく苦しめられたものでした。

ある大学の教授で、この災いが、実際には聖書に記録されているものとは違うと主張する人がいて、当時モーセが行った奇跡についても、彼はベルナルド・ラム博士の著書を引用して、それは自然の現象だと言いました。

モーセとイスラエルの民は、エジプトから解放されて紅海までやって来ました。

この話をご存知ですね。

自称“学者”のベルナルド・ラムは、「あれは紅海ではなく葦の海である。そして葦の海はとても浅い。この地域では時に強風が吹くことがあり、それによって葦の海の水が押され、それで葦の海が乾くことがある。葦の海の一部は、水深がたったの 60 cm で、強風が吹くと水が押しやられ、そこを歩いて渡ることが可能になるのだ。」と書いています。

彼は、これは紅海ではなく葦の海だと説明しているのですが、そうすることで、更に大きな疑問を引き起こし、却って、事をより驚愕的に、奇跡的にしてしまいました。

もしそうならば、パロの全軍隊が水深 50 cm ほどの水に破壊されたことになり、水深 50 cm の葦の海で、戦車はひっくり返り、戦士たちは消え失せたことになるのです。

だから、その事で議論したいと言うならそれでも構いません。

その方がもっと大きな奇跡になるのですから。

私が言いたいのは、パロの時代に起きた災いは、間違いなく事実であるという事、そして、絶望的で破滅的なラッパの裁きもまた、実際に起こるという事です。

何回も言いますが、それは核戦争かもしれないし、神が直接何らかの裁きを下されるのかもしれませんが。

とにかくここでは、「火の燃えている大きな“山のような”もの」、燃えている何かが海に大きな影響を与えるのです。

**第三の御使いがラッパを吹き鳴らした。**

すると、たいまつのように燃えている大きな星が天から落ちて来て、川々の三分の一とその水源に落ちた。(黙示録 8:10)

**この星の名は苦よもぎと呼ばれ (黙示録 8:11)**

星が落ちて飲料水に影響がでます。

私たちには分かりますね。

核爆発の地上実験を禁止した理由は、ストロンチウム 90 が飲料水を汚染し、実験を行った広大な地域に膨大な影響を及ぼすからです。

残念ながら、過去の核実験による放射能の水質汚染は、今でも地球上の広大な範囲に影響を与えている

ことが分かりました。

それから私が本当に驚愕したのは、ロシア語の聖書ではこの『苦よもぎ』という言葉が、ロシア語でそのまま『チェルノブイリ』と書かれている事です。

ピンときた人も多いでしょう。

とにかく『苦よもぎ』はロシア語で『チェルノブイリ』

だからロシア人の兄弟姉妹は、「チェルノブイリ」の箇所でびっくりします。

それが飲料水を汚染すると書いてあるから。

ちょっと興味をひく事なのでお伝えしました。

このように第3の裁きが起こると、飲料水が汚染されます。

それは放射能汚染の可能性が大きい。

言えることは、水が苦くなり、多くの人々が死ぬということです。

**水が苦くなったので、その水のために多くの人々が死んだ。(黙示録 8:11)**

出エジプト記 15章を思い出しますね。

モーセの時代、荒野をさまよっていた時、3日間水が飲めなくて口はカラカラ、唇はひび割れてしまいました。

とその時、目の前に水が見えた！やったー！

彼らは駆け寄り、水を飲もうとして頭から飛び込んだら、その水は苦かったのです。

それでそこを“苦い”という意味の「マラ」と呼び、水を吐き出しました。

その時、主がモーセに指示を与えました。

彼が主に叫んだからです。

「主よ、今度は何ですか！みんなが怒って私を殺そうとしています!!」

主は1本の木を示されたので、モーセはそれを水に投げ入れました。

**すると、水は甘くなった。(出エジプト記 15:25)**

『木』は常にカルバリーの十字架を象徴しています。

苦い水に十字架を入れると、苦い水、苦よもぎの水、汚染された水が甘くなる。

しかし、黙示録 8章では逆のことが起こっていて、良い水、甘い水が、天から星が落ちてくると苦くなるのです。

これは 9章に関連するので覚えておいて下さい。

9章では星が天から落ちてきます。

その星の名前は汚染する者、破壊する者、私たちの敵であるサタン。

さて、これに関する事で、もう一つ興味深い事があります。

出エジプト記 15章では、木が投げ込まれて水が甘くなり、飲めるようになりました。

これは十字架を表しています。

預言的な歌である詩篇 22篇はこう始まります。

わが神、わが神。どうして、私をお見捨てになったのですか。(詩篇 22:1)

キリストは十字架の上で、この言葉を使われました。

「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」

「わが神、わが神。どうして、私をお見捨てになったのですか。」(マルコ 15:34)

主は、目の前で詩篇 22 篇を成就させることによって、人々の目を主に向けさせました。

でも主は、十字架の上で預言的にこう宣言しているのです。

しかし、私は虫けらです。(詩篇 22:6)

十字架にかけられた状態でこう言ったのです。

しかし、私は虫けらです。人間ではありません。(詩篇 22:6)

主イエスは、私たちのために罪とられました。

この「虫けら」について、興味深い研究がたくさんあるのですが、今回の学びの要点はこの「苦よもぎ」

(\*「苦よもぎ」は英語で「Worm (虫) wood」)

「苦よもぎ」は苦さやチェルノブイリだけではなく、実際は『苦』(\*同上)

イエスご自身が、私たちの罪を全て負い、木にかけられました。

それが水を甘くしましたが、大患難時代には、イエス・キリストを拒絶した者たちが飲む水を苦くされるのです。

そこで皆さん、私たちは大患難時代にここにいるのでしょうか。いませんよ！

見ての通り、これはキリストの御業を拒絶した人々に対するものです。

だから今、木を投げ入れて水を甘くするのか、または「私には関係ない！」と言ってキリストを拒み、かつては甘かった水が恐ろしく苦くなってから飲むのか、選ぶのはあなた自身です。

第四の御使いがラッパを吹き鳴らした。

すると、太陽の三分の一と、月の三分の一と、星の三分の一とが打たれたので、三分の一は暗くなり、昼の三分の一は光を失い、また夜も同様であった。(黙示録 8:12)

突然、太陽、月、星が暗くなり、世界が暗闇になります。

最低でも天からの光の 33%が失われるのです。

知っている人もいるでしょうが、今、科学者たちの間で、核戦争によって起こる事が話題になっています。

それは、「核の冬」

世界は暗くなり、また寒くなります。

どれくらい寒くなるかというと、私たちが住んでいるアメリカ西海岸で夏に核戦争が起こると、科学者によれば、夏の最高気温がマイナス 9℃

これが最高気温です。

当然、夜間や冬場は更に気温が低下します。

それで科学者たちは恐れ、これに関して数々の本も出版されています。

この恐怖の「核の冬」、植物が育たないのは明白で、それに伴い飢饉が起こります。

だからこの 33%の光の喪失が「核の冬」である可能性は極めて大きいと言えるでしょう。

また私は見た。一羽の鷲が中天を飛びながら、大声で言うのを聞いた。

「わざわざ来る。わざわざ、わざわざ来る。地に住む人々に。

あと三人の御使いがラッパを吹き鳴らそうとしている。」(黙示録 8:13)

今までのラッパの裁きでもとんでもないと思うのに、「災いだ。ここで耐えても、更に恐ろしいことがこれから起こるのだ。災いだ。災いだ。」

最後の 3つのラッパの裁きは、それまでの 4つのラッパよりも更に厳しい。

なぜでしょう。

次の 9章で、もう 2つのラッパが吹き鳴らされるのを見ますが、それまでの 4つよりもずっと絶望的です。

それは自然界を対象としているのではなく、超自然界、具体的には悪霊の働きに対するものだから。

これまでの 4つが、可能性として核戦争や神が引き起こされる世界的な自然災害であるのに対して、9章は「災い」

なぜならこれは、超自然界、悪霊が相手だからです。

この幻は、定めの時について証言しており、

終わりについて告げ、まやかしを言っていない。

もしおそくなっても、それを待て。

それは必ず来る。遅れることはない。

見よ。彼の心はうぬぼれていて、まっすぐでない。

しかし、正しい人はその信仰によって生きる。(ハバクク 2:3 - 4)